

# 市民討議会 ～まちづくりディスカッション～

## 報告提案書

2010. 10. 18



社団法人 加賀青年会議所

## はじめに

現在の日本は、これまでの中央集権体制から地方分権・地域主権へと、新たな国の体制づくりが模索され、広く議論・検討がなされています。こうした中、今後の地域社会で何より必要とされるのは、行政だけでなく地域住民一人ひとりの意識改革と主体的行動力なのではないでしょうか。

加賀市は、市民からの意見・要望など広く聞くための手段として、タウンミーティングや市長対談、公開ヒアリングなどに取り組まれています。しかしこれらは広く市民に浸透しているとは言えず、結局いつも同じような人たちが集まった中で行なわれているのではないかと感じます。

そこで、そうした場にこれまで参加した事のない人たちにも興味を持ってご参加いただき、積極的に議論や意見を交わしていただける機会の創出と、そこで出た貴重な意見を“市民の生の声”として行政に届け、市民意識や関心を更に向上させていくための新たな手法として「市民討議会」を開催するに至りました。我々（社）加賀青年会議所といたしましては、この加賀市を、独自性をもった魅力あるまちにしていきたいとの思いから、まずは私たち市民の“まちづくり”に対する意識と責任感の向上を目指すことに重点を置き、本事業構築に取り組みました。そして、無作為に抽出した1,000軒の加賀市民のお宅へ開催通知をしたところ、129名の方よりご返信をいただき、当日は趣旨に理解・賛同をいただいた25名の方々による真摯な討議がなされました。

その結果を基に、当青年会議所において内容をまとめさせていただいたものが、本報告提案書となっております。石川県内初の試みとして開催させていただいた市民討議会並びに本報告提案書が、市民の意識醸成は基より、市民の方々の声を行政にお伝えする有用な手法のひとつとしてご理解いただけますことを（社）加賀青年会議所会員一同、心より願います。

2010年度（社）加賀青年会議所 理事長 下口 智徳  
地域力推進委員会 委員長 出島 良彦

# 第1章 事業概要

## I 事業の目的とねらい

多くの市町村がそうであるように、加賀市にも町会、自治会、タウンミーティングなど、地域の特性を活かした住みよい豊かなまちづくりのための様々な活動の場がありますが、そのような活動に関わる市民はほんの一握りであると思います。より良い地域社会を築いていくためには、より多くの市民が地域への関心を高めていく事および、市民間のみならず、市民と行政がより交流を深め、協働体制を強めていく事が必要と考えます。我々(社)加賀青年会議所は、『自分たちのまちの課題は、自分たちで解決する』という市民意識の醸成を目指すと共に、市民と手を携えて社会を変革していくことが、地域に根ざした青年会議所の使命であるとし、日々の活動に取り組んでおります。

そのなかで、市民参加型まちづくりの新しい手法として脚光を浴びている市民討議会開催を計画いたしました。これは、“プランクスツェレ”（※1）という方式を用い、今まで発言する機会を持たなかった“サイレント・マジョリティ（声なき大多数）”と呼ばれる多くの市民の意見を行政に届け、市民と行政の協働のまちづくりを推進していくための事業です。

自分の生活するまちに興味がないわけではなく、発言の場があれば真剣に考え、意見を述べたい……。私共は、そのような大多数の市民にスポットを当て、より良いまちづくりを行なっていくためには何が必要かということを考えていただくこうした機会を通じて、今まで以上に自分達のまちに対する関心・責任感を強めていただくことに期待するものです。

### ※1 プランクスツェレ（Planungszelle＝計画細胞）とは？

ドイツ・ヴパタル大学のペーター・C・ディーネル（Peter C. Dienel）名誉教授により、1970年代に考案された市民参加の手法。1990年に起こった西ドイツと東ドイツの統一後、住民投票制度が州、地方自治体で法制化され、直接民主主義に懐疑的であったドイツの政治風土が一変。こうした潮流の中、さまざまな市民参加の方法が生まれ、なかでもこのプランクスツェレが脚光を浴びた。その定義と主な特徴は以下の通り。

#### ★定義

『プランクスツェレは、無作為抽出で選ばれ、限られた期間、有償で、日々の労働から解放され、進行役のアシストを受けつつ、事前に与えられた解決可能な計画に関する課題に取り組む市民グループである』 「プランクスツェレ（ディーネル教授 著）」より

#### ★主な特徴

- ①話し合いへの参加者を16歳以上の市民から無作為抽出で選ぶ。
- ②参加者に謝礼を支払う。
- ③1グループ5人（通常5グループ・25人程度で行う）に分けて、参加者のみが話し合いを行い、全体で投票を行う。
- ④各話し合いの前に現状や課題などの情報提供を受ける。
- ⑤まとまった結果を市民答申として公表する。

## Ⅱ 実施機関

1. 主催  
（社）加賀青年会議所
2. 後援  
加賀市、加賀市議会、北國新聞社

## Ⅲ 募集概要

1. 募集期間  
6/10～6/30
2. 募集方法  
加賀市の電話帳をもとに1,000軒のご家族を無作為抽出し、参加依頼文を発送して、募集を行う。
3. 募集定員  
30名

## Ⅳ 開催概要

1. 開催日時  
2010年 8月 7日（土） 10:00～16:30
2. 開催場所  
セミナーハウス あいりす
3. 参加者  
参加希望者は締切り時点で31名。その後の出席辞退等により、最終的には25名で確定。
4. メインテーマ  
『市民がつくる加賀の“光”』  
現在の加賀市の大きな問題点のひとつに、人口流出があげられます。加賀市から出て行く人の理由は多種多様だと思いますが、その大きな要因のひとつとして、郷土に対する愛着や、郷土を誇りに思う気持ちが薄れているからなのではないでしょうか。また、今後の加賀市の発展や活性化について考えた際、観光のまちとしての整備の充実等も必要なこととは思いますが、「住んでよしは、来てよし」という言葉がありますように、まずは市民（住民）一人ひとりの、このまちを住み良くしようとする意識や行動力が何より求められるのではないかと

考えます。

そこで、市民の方々が皆、愛着や誇りを持てるような加賀市の“光”（伝統・文化・歴史・人・特産品等）についてあらためて考え、意見を出し合っていたかと共に、加賀市をさらに光輝かせる為に私たち市民が出来る事についてのとりまとめを行いたいと思います。

討議テーマ 1

「あなたが思う加賀の魅力ある“光”とは？」

討議テーマ 2

「光輝く加賀市をつくるため、私たち市民は何をすべきか？」

## 5. 情報提供者

参加した市民は、様々な事項について専門家の情報提供を受け意見形成をして頂きます。

討議テーマは、市民の身近な事を選びますが、専門家から幅広い情報提供を受けながら意見形成をしていくことによって、具体的解決策を理性的に考えることが出来ると考えます。

情報提供者：加賀市観光協会 事務局長 岡田 基義 氏

講演内容：「住んで良しは来て良しのまちづくり」

観光従事者としてこれまで取り組まれてきた様々な経験・豊富な知識を基に、誇るべき加賀市の魅力とは何かといったお話のみならず、他所のまちづくりや地域活性の成功事例等、ご紹介いただきながら、これからのまちづくりに求められるものは何かについてのご講演をいただきます。何より住民にとっての住み良いまちづくりが、観光面での充実にも繋がっていくというアドバイスも併せて頂きます。

## 6. 話し合い（討議）の方法

話し合いは、1グループあたり5名×6グループ（当日結果5グループ）で行い、話し合いごとに、くじ引きにてメンバーチェンジを行うものとします。また、各グループのコーディネーター役として青年会議所メンバーが担当し、グループのサポートにあたります。青年会議所メンバーは、あくまでも、市民の意見を聞きだす事に徹します。

まず参加者は、情報提供者からの情報を得て、その後、グループごとにコーディネーター（青年会議所メンバー）からルール説明を受け、メンバーの自己紹介を行い、グループ内で「まとめ係」「発表係」「タイム

キーパー係」「書記係」の役割を決めて、実際の話し合いへと移ります。最初にテーマに沿っての自由な意見交換を行い、続いて、各自の意見を付箋にそれぞれ記入し、ワークシートへ貼り付け、それを分類してとりまとめ、各グループの意見として3つ以内にまとめていただきます。また、必要に応じて残したい意見があれば、その意見を記入していただきます。

## 7. 話し合いのルール

話し合いのルールとして、以下5項目を参加者に事前確認していただく。

### ①自由な発想

・・・実現可能かよりも、多様で多角的な意見を出来るだけ多く。

### ②他人の意見を否定しない

・・・他人の意見を尊重しながら自由に。

### ③全員が発言する

・・・みんなで意見を出し合って全員参加できるように。

### ④途中で意見を変えても構いません

・・・人の意見を聞いて自分の意見を変えても良い。

### ⑤必ず結論を出す

・・・後戻りせずに時間内で結論を出す。

## 8. 発表と投票

1回の話し合いが終了した時点で、グループごとに発表を行い、全体投票を行います。投票については、1テーマごとに1人6枚のシールを配布し、各自が良いと思う意見にシールを貼ってもらいます。ひとつの意見に貼れるシール枚数には制限を設けず、自分のグループの意見にも投票可とします。

## 第2章 話し合いの結果

### 討議1 「あなたが思う加賀の魅力ある“光”とは？」

#### 集約された意見と投票結果（原文のまま記載）

(ア) 地元を好きになろうよ！人が光	15票
(イ) 交通の便	15票
(ウ) 片山津温泉からの絶景（朝日と夕日を見よう！）	14票
(エ) 九谷の器でお食事を	13票
(オ) 豊かな自然（海、山、川）	13票
(カ) お祭り	9票
(キ) 温泉（総湯）	9票
(ク) 橋立市場	9票
(ケ) 温泉	8票
(コ) 川下り	7票
(サ) 地産品の食文化	7票
(シ) 大聖寺の町並みと九谷焼	7票
(ス) 三温泉	7票
(セ) 食べ物	4票
(ソ) お茶会等の和菓子の発展	3票

(※投票は、意見の傾向をみるためのものであり、意見の優劣を判断するものではありません。)

#### ※残したい意見として

- ・ホタル狩
- ・インター、駅など加賀市の“玄関”としての周辺整備
- ・大聖寺ことばを残す
- ・スポーツ振興（フットサル・テニス）

## 討議 1 のまとめ

### 加賀を愛する人（かがもん）こそが、 “加賀の光” となる

加賀市には、伝統・文化・歴史・人物・特産品等、多くの資源があります。また、豊かな自然や温泉・食文化に加え、外部からの交通アクセス等もよく、観光のまちとしても非常に恵まれた環境にあるものと思われます。しかし、こうした加賀の魅力を十分に把握している人の数は果たしてどれ程のものなのでしょうか。

今後の加賀市の更なる発展のためには、数多ある加賀の魅力を理解・再認識し、郷土愛に満ちた“人の力”の結集が何より必要であると考えます。そうした加賀の人々（＝かがもん）が、まちをより光輝かせる原動力になると信じます。

## 討議2 「光輝く加賀市をつくるため、私たち市民は何をすべきか？」

### 集約された意見と投票結果（原文のまま記載）

(ア) 学んで伝える（口こみ等）	17票
(イ) 地場の物を愛でる	17票
(ウ) 自分の町、市の「よさを知る」・・・個人こじんが何をするか ・・・自分の町が好きになる	15票
(エ) 地域毎の交流を！！・・・キャンバスの利用により市全体を知	14票
(オ) 教育 加賀市が大好きなリーダー作り	13票
(カ) 若い年代が小さくても強い事業をおこす	13票
(キ) 人との交流を増やす	11票
(ク) ボランティアガイド養成の促進と組織づくりと横の連携を急ぐ こと	10票
(ケ) 市長と市民とのいろいろな要望、クレームを話し合える場を 積極的に持ってくれること	10票
(コ) 川下りの景観整備、清掃など身の回りの所から連帯感を持って 始めて行く行動を	8票
(サ) ふれあい	8票
(シ) 行事、近所づきあい	7票
(ス) 人材育成	4票
(セ) 宿泊客に加賀市の新しい食材を提供・・・新鮮な物	2票
(※投票は、意見の傾向をみるためのものであり、意見の優劣を判断するもの ではありません。)	

### ※残したい意見として

- ・市民がもっと積極的に地元の旅館を利用をする。
- ・小松空港からの交通手段が不足している。キャンバスなどによる代替手段の有効活用。
- ・行政に要望を求める。
- ・市への働きかけを積極的に。

## 討議 2 のまとめ

**市民誰しものが“かがもん”となるべく地域考察に取り組むと共に、あらゆる人にもてなしの心で接します。**

加賀の魅力を把握し、郷土愛を深めて行くためには、私たち市民一人ひとりが、加賀の歴史や伝統文化等について率先して学ぶ意欲を持って行動していくことが必要です。また、地域の良さを知るためにも、地産地消の推進をはかり、市民は進んで地元の産物を日常的に積極利用・活用していくことが大切だと考えます。

そうした取り組みがこのまちに広がることにより、多くの魅力ある“かがもん”が生まれ、まちの活性化が進むと共に、外部へのPRに大きく繋がっていくものと考えます。併せて市民は加賀を訪れたあらゆる方々に、常におもてなしの心で接する気概を持たなければなりません。

こうした市民の意識改革が、生き生きとしたまちの創造・発展に繋がっていくものと信じます。

## 提 案

今回、市民討議会を開催したことで、加賀市の未来を見据えた熱い思いや様々な考えを多くの市民の方々が持たれていることにあらためて気づかされたと同時に、今後の加賀市発展に向けた期待を大きく膨らませることが出来ました。また、市民の方々は自分達の日頃の思いや考えを語り合う今回のような市民交流の場のみならず、行政と向き合い、互いに真剣に議論できる機会の創出も強く望んでおられます。更に討議内容・結果からは、加賀市の発展に向けた市民の方々の主体的意識と意欲を感じることでできる数多くの貴重な意見をいただくことができました。

そうした市民の方々の声を基に、以下内容を本討議会の提案とし、まとめとさせていただきます。

### **主体性を持つ市民と、市民を主役とする行政が 一体となったより良い加賀の創造を**

- (1) 市民は常に主体性と自己責任を重んじ、郷土愛を深め、積極的なまちづくり振興に努めるべきである。
- (2) 行政はそうした市民の声や活動に対し、真摯に耳を傾け対応していくと共に、市民を主役に置く政策・条例を明確にし、市政に的確に反映していくよう求める。
- (3) 市民と行政は常に一体となるべく相互理解を図ると共に、より効果的な人づくり・まちづくりを互いに検討・実践することに努め、誰しものが誇りと愛着を持てる、明るい豊かな加賀の創造を目指すものとする。

## ＜市民主役の加賀市創造に向けた実践プラン＞ “市民と行政が協働で取り組む”

### 市民討議会開催を！！

#### 市民討議会により市民は、

- 加賀市について考え、学ぶことで、加賀市への愛着がより深まると共に、主体的意識や自己責任の向上に繋げることが出来る。
- 地域や性別、年代に隔たりなく意見交換や交流が出来る。
- 行政との意見交換、交流を通じて市政への関心を高めることが出来る。

#### 市民討議会により行政は、

- 加賀市が抱える問題について、市民と共に解決策を考えることが出来る。
- 市民との絆を深めることが出来る。
- 参加者を無作為に抽出するため、今まで発言する機会を持たなかった“サイレント・マジョリティ”（声なき大多数）とされる市民の声を含め、幅広い意見を聞くことが出来る。
- 市民意識が醸成されることにより、加賀市の更なる活性化に繋がる有効な市政に取り組むことが出来る。

主体性を持つ市民と、市民を主役とする行政が一体となる、より良い加賀市の創造が実現！

## 第4章 アンケート結果

### I 参加者アンケート結果

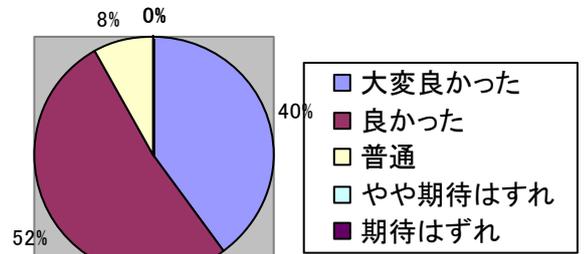
#### (01) 全体的評価はいかがですか。

(1つ選択し、できたらご意見・ご感想などご記入下さい)

- |           |     |            |     |
|-----------|-----|------------|-----|
| 1) 大変良かった | 10名 | 2) 良かった    | 13名 |
| 3) 普通     | 2名  | 4) やや期待はずれ | 0名  |
| 5) 期待はずれ  | 0名  |            |     |

#### <意見>

- ・皆さんが加賀市について思っていることがわかり良かった。ただ、討議するにあたり時間が少し短いと感じた。
- ・多様な意見が聞けた
- ・自分にできる事をまずしようと思った
- ・知らない人と意見交換ができて良かった
- ・いろいろな年代の方々と加賀市について話をする事ができて大変参考になったし、自分自身、加賀市により興味を持つことができた。ただ若い人がもっといれば、より良いものになったかもしれないと感じた
- ・今回、市民討議会に参加させていただきまず御礼を申し上げます。このような会をどんどんやってもらいたいと心から思った。グループ分けの5名は良かったけれど、より意見をもらうという意味ではグループの人数が多くてもいいかなと思った
- ・想像していたより活発な討議ができた。市民はそれぞれ「ああしたい、こうしたい」といった多くの意見を持っているが発表する機会と場所がないのであろう
- ・討議会を参加する前に、参加して発言しやすいように、この会の趣旨や方向性、参考資料等を配布(送付)してもらえればと思う
- ・多様な職種ならびに年齢の人と意見交換ができ良かった
- ・いろいろな方と交流、意見が聞けてとても楽しく参加できた。自分はまだまだ加賀市の地域の事など知らないことがあるんだと学んだ1日だった
- ・加賀市の事を知らなかったと改めて思った。参加することができとてもよかった
- ・テーマ、資料を事前に提示してほしい
- ・1つの議題に対して討議の時間がもう少し長ければよかった
- ・市民の意識を高めることには一定の効果があったと思われるが、次回からは今日の結果を踏まえて具体的な施策について検討する場を望む
- ・自由な意見交換の時間ならびにまとめの時間が少し足りないと感じた
- ・討議会の流れは良かったと思う
- ・初めてにしてはなかなか良かったと思う
- ・自分が思っていた加賀市の観光、どうしたらもっとお客様が来てもらえるかなどの意見交換ができてよかった
- ・他に期待するのではなく、自らが何をするのかによって道が開ける。そのことの意識づけをするための第一歩であった
- ・これっきりではなく、何回も改善しながらまた対象を変えながら行ってほしい。できれば市内各町に「どんな良さ」があるのかを語る場などを貴団体で開催してもらえないか
- ・他の市民のいろんな考え方や意見が聞けて良かった
- ・加賀市について話す機会が持てて良かった

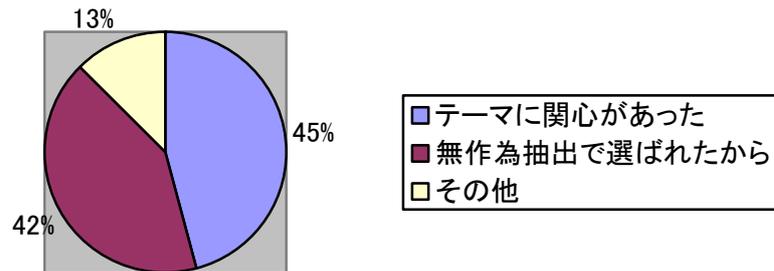


(02) 参加動機についてお聞かせください。

- 1) テーマに関心があったから 11名
- 2) 無作為抽出で選ばれたから 10名
- 3) その他 3名

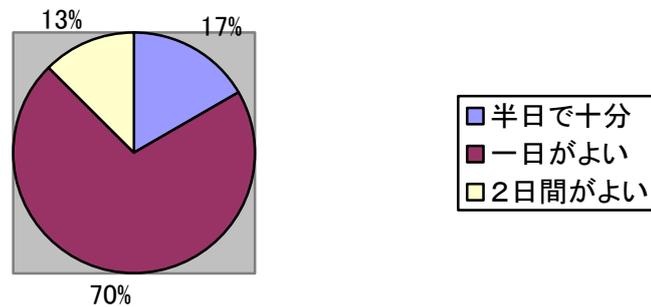
<意見>

- ・こういった場にまったく出たことがなかったから
- ・加賀市民として役に立てればと思い参加した
- ・商品券も頂けるということで嬉しくて



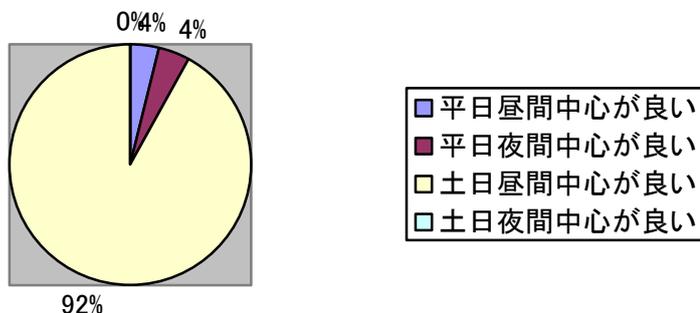
(03) 開催日数についてどのように感じになりましたか。

- 1) 半日で十分 4名
- 2) 1日がよい 17名
- 3) 2日間でよい 3名



(04) 会議開催の曜日、時間帯はいかがでしたか。

- 1) 平日昼間中心が良い 1名    2) 平日夜間中心が良い 1名  
3) 土日昼間中心が良い 23名    4) 土日夜間中心が良い 0名

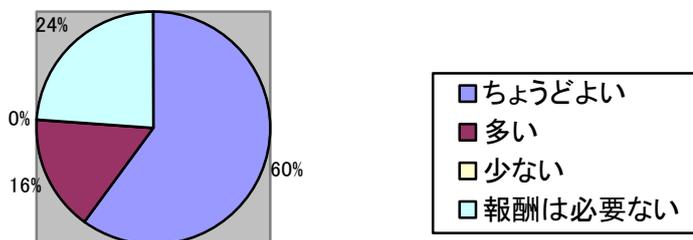


(05) 報酬とその額についてどのように感じになりましたか。

- 1) ちょうどよい 15名    2) 多い 4名    3) 少ない 0名    4) 報酬は必要ない 6名

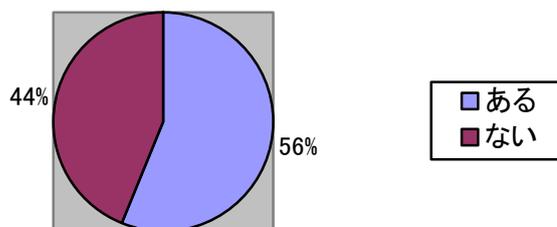
<意見>

- ・交通費のみ 1,000 円支給がいいのではないかと
- ・本当は4が理想



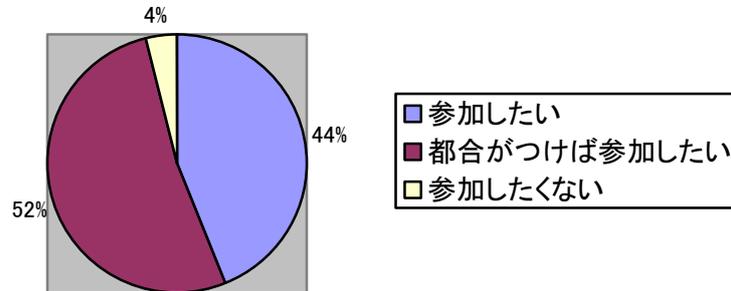
(06) これまでにまちづくり等の加賀市の集まりに参加したことがありますか。

- 1) ある 14名    2) ない 11名



(07) 市民討議会に限らず、加賀市の市民参加の試みに今後もまた参加したいと思いますか。

- 1) 参加したい 11名
- 2) 都合がつけば参加したい 13名
- 3) 参加したくない 1名



(08) 今後、市民討議会の討議テーマにしたほうがよいと思うテーマや日ごろ関心のあるまちづくりに関する事項などがございましたらお聞かせください。

- ・どうしたら加賀市民が加賀市に興味を持ってくれるのか？その為には何をしたらよいか？
- ・討議テーマの光がわかりにくかった
- ・市の活性化について。市への意見・要望・苦情について
- ・人口を増やす施策について。働く場所を増やすためにはどうすればいいか
- ・経済の面で「加賀市の経済を発展させるためには」というのはどうか
- ・私事ではあるが、太陽光発電をつけてみて、もっと多くの方が付けられるようにエコとは何かをテーマにしてはどうか
- ・加賀市は働く場所(会社および業種)が少ないと考える。企業を誘致しなければならない。それもできるだけ先端技術に近い産業を
- ・医療体制の不備等、市民に病気など何かあった場合の医者・スタッフの充実など医療面の促進について。安心して地元の医療機関にかかれる方策について
- ・ゆりかごから墓場まで
- ・教育について。雇用の安定
- ・観光地(三湯)間のアクセス、交通(バス)等について考え、今後の行事計画を立案してほしい
- ・ゴミ袋などの値段等、公共料金の決め方の情報
- ・市内交通のアクセス、地産地消(地元民による温泉旅館の活用や農作物の消費)
- ・若者の希望がもてるまちづくり
- ・活力のあるまちづくり
- ・今回のテーマは難しいと感じたので、テーマはいくつか的をしぼったほうがいいのか
- ・今回のテーマはなかなかしぼりにくかった。もっとテーマに工夫を。例えば身近なことや未来の子供のこと
- ・柴山湯でのイベント、加賀市を巻き込んだ年1度の人を寄せるための大きなイベントについて(静岡つま恋の音楽のようなもの)
- ・今後の加賀市をよりよくするためのテーマが良い
- ・今後増加が見込まれる海外旅行客に対する整備について。50年後の加賀市について
- ・三温泉以外の市内温泉(別所・日谷・橋立 etc)の地元利用促進について。地元の食材利用を高める方法。交通網の再考について
- ・公共交通(キャンバス等)について
- ・老人の住みよいまちとは

**(09) その他ご意見、ご感想などございましたらお聞かせください。**

- ・観光についての討議がありましたが、正直言うと加賀市の観光地をあまり知らないなので、討議する前に有料で観光スポットをまわってみてもよいのではないかと思いました。来年も市民討議会を開催して下さい。
- ・本日は有意義であった。
- ・いろいろな人がいて、自分の知らないまちの話が聞けて良かった。加賀市民なのに知らないことだらけでした。
- ・今日の討議会は非常に参考になった。今後も続けてほしい。回数を増やして、意見交換を積極的にしたほうがよいと思った
- ・企業が立地しやすい環境を整える必要があろう。簡単ではないが長期的な戦略が必要と考える。
- ・市長に対して、地元住民の要望・クレーム等住民の生の声を聞いてもらえるような場を積極的に作る姿勢や行動を望む
- ・定期的に開催してくれることを望む
- ・親子で参加できる行事がもっとあったら嬉しい
- ・今後もこのような会をつづけてほしい
- ・意見の集約をどのように活用するのか
- ・いろんな方にお会いできてよかった
- ・青年会議所の皆さん御苦労さまでした。これからの活動よろしくお祈いします
- ・今回の事でJCへの信頼感が増した
- ・幅広い年齢や地域の参加者が集まったことで、意見が偏ることなく有意義な話し合いができた
- ・農業祭、漁業祭、山野草食材祭の合同祭の開催ができないか議論してほしい
- ・年内中に他の人で2回目をしてほしい

**(10) 性別**

- 1) 男性 18名    2) 女性 7名

**(11) 年代**

- 1) 20歳未満    0名  
2) 20代        2名  
3) 30代        4名  
4) 40代        2名  
5) 50代        2名  
6) 60代        14名  
7) 70歳以上    1名

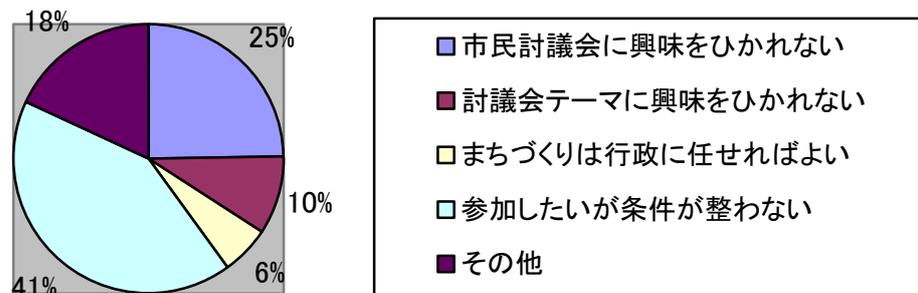
**(12) 職業**

- 1) 学生        0名  
2) 会社員      6名  
3) 会社役員    2名  
4) 団体職員    2名  
5) 公務員      0名  
6) 自営業      5名  
7) 農林水産業 0名  
8) 主婦        2名  
9) 無職        4名  
10) その他     4名

## Ⅱ 参加出来なかった人へのアンケート結果

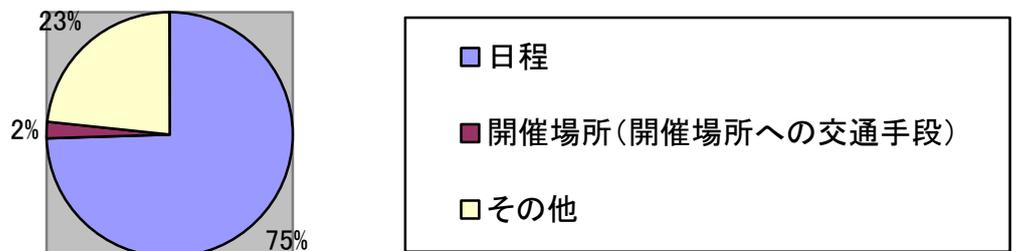
### (01) 市民討議会に参加を希望しなかった理由は？（複数回答可）

- 1) 討議会参加に興味をひかれない。(26名)
- 2) 今回の討議会テーマに興味をひかれない。(10名)
- 3) まちづくりは、行政(市役所など)に任せればよい。(6名)
- 4) 参加したいが条件が整わない。(当日の都合がつかない)(44名)
- 5) その他(19名)
  - ・身体障害がある為。
  - ・体調不良。
  - ・高齢な為。(10名)
  - ・加賀青年会議所とは何をしているか良く分からない。どんな実績があるのか分からない。
  - ・自身がない。(3名)
  - ・公務員なので出ない方が良いと思います。
  - ・交通の不便。
  - ・ボランティア活動の予定がある為。



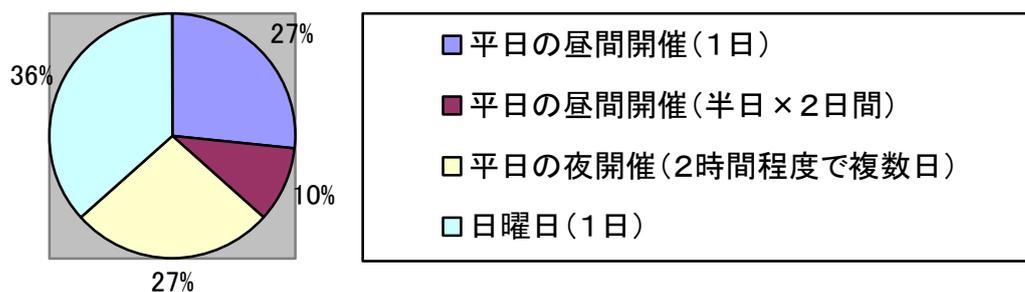
### (02) (01)で「参加したいが条件が整わない」とお答えになった方におたずねします。都合がつかなかった条件とは？（複数回答可）

- 1) 日程(35名)
- 2) 開催場所(開催場所への交通手段)(1名)
- 3) その他(11名)
  - ・時間が長い。
  - ・仕事がある為。
  - ・町内の行事の為。
  - ・旅行の為。
  - ・高齢の為。
  - ・テーマのレベルが高い為。
  - ・予定がある為。



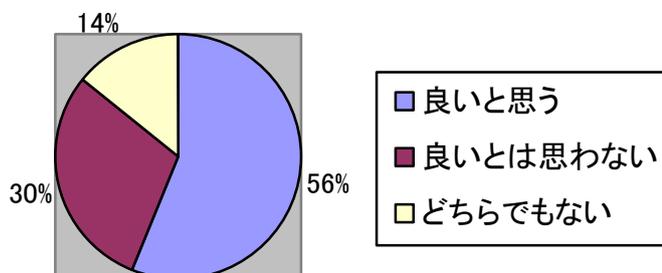
(03) (02)で「日程」とお答えになった方におたずねします。どのように改善すれば、参加可能ですか。

- 1) 平日の昼間開催(1日)(8名)
- 2) 平日の昼間開催(半日×2日間)(3名)
- 3) 平日の夜開催(2時間程度で複数日)(8名)
- 4) 日曜日(1日)(11名)



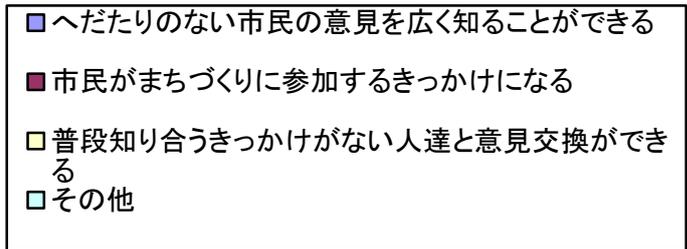
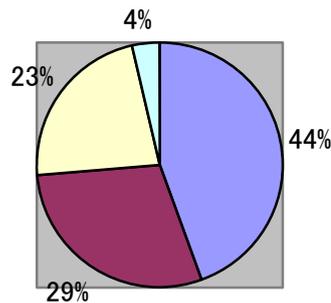
(04) この市民討議会は、参加していただく市民の皆様を無作為で選んでいます。この選び方についてどのように思われますか。

- 1) 良いと思う(51名)
- 2) 良いとは思わない(27名)
- 3) どちらでもない(13名)



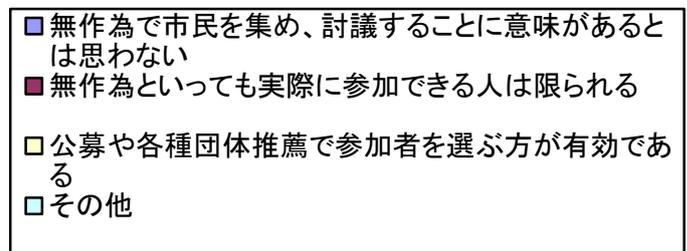
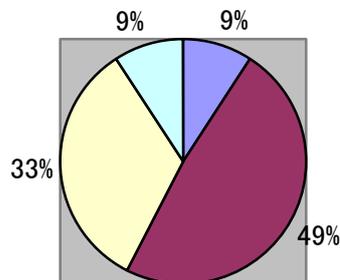
(05) (04)で「良いと思う」とお答えになった方におたずねします。その理由は？（複数回答可）

- 1) へだたりのない市民の意見を広く知ることができる。(37名)
- 2) 市民がまちづくりに参加するきっかけになる。(24名)
- 3) 普段知り合うきっかけがない人達と意見交換ができる。(19名)
- 4) その他 (3名)
  - ・選ぶことに関して問題はない。
  - ・市政に対して不平不満が多々ある。
  - ・今、自分達の街について？より一層知る事が出来、何をすべきかを考えさせるきっかけと…。
  - ・その都度、各分野(職業・年代)からの声を知る事が出来る。



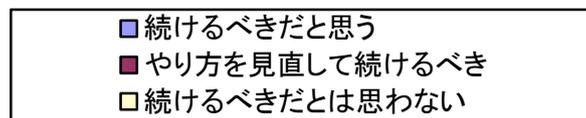
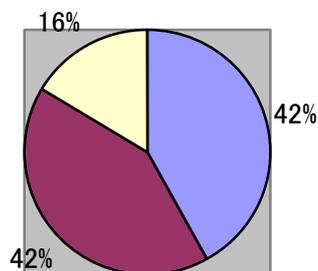
(06) (04)で「良いと思わない」とお答えになった方におたずねします。（複数回答可）

- 1) 無作為で市民を集め、討議することには意味があるとは思わない。(3名)
- 2) 無作為といっても実際に参加できる人は限られる。(16名)
- 3) 公募や各種団体推薦で参加者を選ぶ方が有効である。(11名)
- 4) その他 (3名)
  - ・高齢者(70歳以上)を除外するなら通知から除外してほしい。元気な人なら除外不必要である。
  - ・年齢オーバーの者まで無作為抽出し無駄をしている。



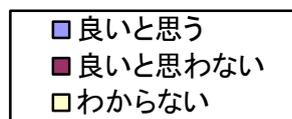
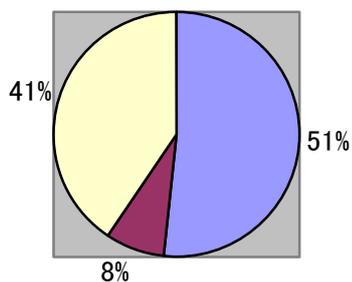
(07) 無作為抽出による市民討議会の実施を今後も続けるべきだと思いますか。

- 1) 続けるべきだと思う。(36名)
- 2) やり方を見直して続けるべき。(36名)
- 3) 続けるべきだとは思わない。(14名)



(08) 今回の市民討議会のテーマ「市民がつくる加賀の“光”」設定についてどのように感じますか。

- 1) 良いと思う。(47名)
- 2) 良いと思わない。(7名)  
⇒どのようなテーマが良いですか。
  - ・もっと具体的に。
  - ・少し抽象すぎるように思います。
  - ・知らない人が集まって討議するより、知識のある人に話をしてもらいたい。
  - ・光より未来の為の夢実現。
  - ・テーマが大きすぎる様に思う。
- 3) わからない。(37名)



(09) 加賀市では、今回の市民討議会のほかにも市民参加によるまちづくりとして、施策を実施しておりますが、これらの取り組みについておたずねします。

1) 今までの取り組みで十分である。(37名)

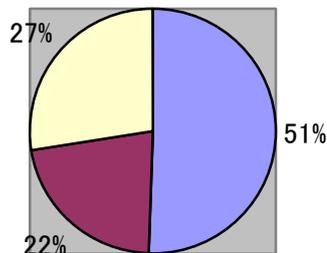
2) 今以上の取り組みが必要である。(16名)

⇒具体的な取り組み

- ・地区ごとの問題を取り上げる。
- ・町おこし、最近小松地区が頑張っている。
- ・公民館活動の中身の希望や経理の公開、公平性など、いろいろ無記名のアンケートを多く行って調べてほしい。
- ・地域住民の意見を聞いて、代表者が出た方が良いと思います。
- ・全員、自由な発言の場にすべき。
- ・市民に直接関係のある議題を願う。
- ・若者が定住出来る加賀市を。

3) その他(20名)

- ・取り組んでいる全体像を知らない。
- ・今までの活動内容を知らない。
- ・すみませんが、今までの取り組みがどのようなものか分かりません。
- ・一部政治的グループが実質仕切る事がある。
- ・どんな施策があるのか良く分からない。
- ・興味なし。とりあえず税金の無駄使いを止めてもらいたい。
- ・市民参加のまちづくりが、どの様な活動をしているか全然理解してない。
- ・市職員が地域で動き指導及び、補助すべきです。
- ・行政と地域の町民がテーマを持って話し合う方が良い。



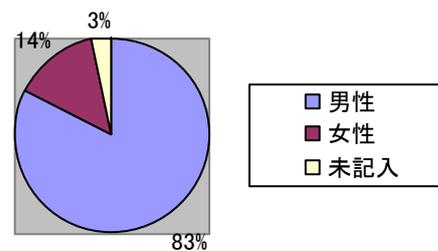
- 今までの取り組みで十分である
- 今以上の取り組みが必要である
- その他

(10) その他、この市民討議会などについて自由にご意見をお寄せください。

- ・討議会に参加された方の意見を尊重し実行に移してほしい。特に議員、公務員の給与改定に尽力して頂きたい。
- ・謝礼の金は税金から出ているのか。謝礼は必要なのか。年金暮らしの老人じゃなく、地域の若い人達が主体になるべきだ。
- ・まちづくりは各地区にて実行されていますが、市事態が各地域に丸投げ的で職員自身が動こうとせず、指導だけで予算的にも動く事が出来ず、行政的にも机から離れず指示するだけで地域の組織を市の配下と勘違いし雲の上の人になりすぎてまちづくり事態討議会に値せず。
- ・前田卓三氏の講演があればと思う(組織は「人」基準より「仕事」基準へと進むべき等の話)。
- ・参加できなくて申し訳ございません。
- ・長期間、続けられる会合であってほしい。
- ・一部政治的グループが実質仕切る事がある弊害を減ずる意味でも貴会の意義がある。勿論、どう活かしていけるかにかかる。
- ・色々な方のご意見を聞く事はとても良い事だと思います。頑張ってください。
- ・三谷地区では松風荘の廃止問題を抱えています。老人福祉の観点から、軽い問題ではない。一度取り上げて頂きたい。
- ・取り組んだ内容を多くの市民が知る事が出来るよう、出来るだけ多くのチャンネルで発信して下さい。閉鎖感が強い加賀市の現状を何とかする活動に期待します。
- ・青年会議所の役員、青年団、女性、特に若い女性(40代まで)、子供、小学校、中学校別に分けてこの討議会を設けては。高校生も良いのでは。
- ・加賀市は問題が山積みである！！(市の情勢、破産の傾向に向かっているのか、温泉地をどうするのか、誘客について、農林業について)
- ・障害者の雇用について考えて頂きたい。
- ・住民がまちづくりを考える新たなきっかけとなればいい。高齢化社会における高齢者の地域コミュニティ作り、また、乳児を抱えた世代への子育て支援が重要だと考えます。
- ・PR不足です。良くわかりません。
- ・討議会テーマを誰でも分かる様な議題にして下さい。
- ・山代温泉の町中を散策する観光客を見かける様になりました。喜ばしい事ですが、地域の人がこの方々を無視するのではなく、「こんにちは」や「いらっしやいませ」と声を掛ければ、お客様に良い気持ちになって頂けるのでは。挨拶にお金はかかりません。
- ・加賀市の発展につながる討議会ならどんどんしてほしいと思うが、私自身、どうして良いかわからない。
- ・正しい物(もの)の見方、考え方を養う勉強会を開く様に。
- ・大変有意義とは思いますが、参加できず残念に思います(耳が不自由です)。
- ・市民は今、本当に政治に対して不安感、又は感心を持っているのではないか。この機会、この討議をすることは、とても良い事だと思います。

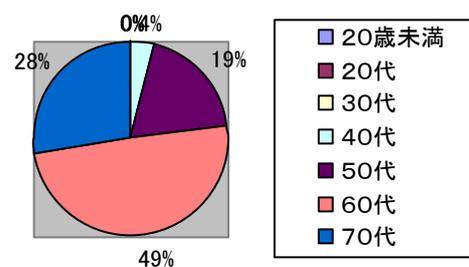
(11) 性別

- 1) 男性(80名)
- 2) 女性(14名)
- 3) 未記入(3名)



(12) 年代

- 1) 20歳未満(0名)
- 2) 20代(0名)
- 3) 30代(0名)
- 4) 40代(4名)
- 5) 50代(19名)
- 6) 60代(48名)
- 7) 70歳以上(27名)



(13) 職業

- 1) 学生(0名) 2) 会社員(15名)
- 3) 会社役員(5名) 4) 団体職員(2名)
- 5) 公務員(3名) 6) 自営業(15名)
- 7) 農林水産業(6名) 8) 主婦(3名)
- 9) 無職(38名)
- 10) その他(8名)
- (・パート ・農業 ・アルバイト ・市委嘱 ・時々アルバイト)
- 11) 無記入(3名)

